

JTU メディカル委員会提案事項

2011/08/07

JTU メディカル委員会

【2011-2012 年度活動内容について】

- 以下の活動内容を提案
- 各専門委員会ならびに都道府県協会に対して、メディカル・医科学ミーティングや社員総会など様々な機会を通して、現在のメディカルに関する活動内容(メディカル、アンチドーピング、強化内の医学面)について意見招請を実施、現場の要望について把握
- 各専門委員会ならびに都道府県協会への意見招請結果を活動内容に順次反映

【対象】

- 選手:
 - ✓ ナショナルチームから一般選手まで
 - ✓ 高齢者からジュニア・キッズまで
- 大会:
 - ✓ 日本選手権、世界選手権、ワールドカップ
 - ✓ 地方大会(JTU 関連)

【活動内容(案)】

- 選手:
 - ✓ ナショナルチーム(強化が主体、メディカル・アンチドーピングが側面からサポート)
 1. 選手の体調管理(内科面、整形外科面)、傷害の早期発見・早期治療・早期復帰へのサポート、傷害予防
 - ◇ JISS における検査データの共有(個人情報管理の問題)
 - ◇ 各選手かかりつけ医との連携・ネットワークづくり
 - ◇ スポーツ傷害の相談窓口
 - ◇ 特に女子選手については「摂食障害・無月経・骨密度低下」など女性特有の疾患への対応
 2. ドーピング対応(アンチドーピング主体)
 - ◇ 個別相談への対応
 - ◇ 大会遠征時の対応
 - ◇ WADA code 最新情報の提供(毎年1月1日更新)
 3. 大会・合宿帯同
 - ◇ トレーナー・選手かかりつけ医・強化との連携・情報共有
 - ◇ 遠征先の感染症情報の収集と予防接種などに関する助言
 - ◇ JISS における検査データの活用
 - ◇ 常用薬・サプリメントのアンチドーピング対応
 - ◇ 医薬品・医療器材の準備
 - ◇ 合宿先が固定している場合、地域医療機関との連携
 4. 選手強化に関しての医学面からの助言
 5. メンタル面に関するサポート
 - ✓ 一般選手(エイジグループ[キッズ・ジュニア・中高年を含む])
 1. 安全に競技を楽しむための医科学的知識・技術の普及啓発活動
 - ◇ 講習会
 - 大会時
 - 都道府県協会における研修会

- 実施主体(メディカル単独よりも他委員会や大会実行委員会との連携)
- ◇ 啓発冊子・マニュアル(医学面を独立させるよりも、既存の普及冊子の改訂時に医科学面を充実させる)
- ※ 各年齢層に合わせた競技への取り組み方について、特にジュニアと中高年へのアプローチが必要不可欠

- ✓ 一般選手(ジュニアエリート)
 1. 特にジュニア一貫指導システムへの医科学面からの協力
 2. ナショナルチームへの医学サポート 1~5 に準じる

- 大会:
 - ✓ 安全対策
 - ◇ 大会運営への事前・事後関与
 - (大会救護だけでなく、)運営面全体の安全対策に関する指針作成
 - ◇ 地元医療機関との連携
 - ◇ 大会救護
 - 救護運営指針の妥当性についての検討
 - ◇ 大会参加当日セルフチェックの普及啓発
 - ◇ 大会申込時健康チェックの普及啓発
 - 上記 2 チェックの妥当性についての検討
 - ✓ ドーピング検査時、NF Representative として関与(特に日本選手権、世界選手権、ワールドカップ)
 - ✓ 本競技の安全性(危険性)についての客観的な評価
 - ◇ 特に重大事故の原因究明と予防対策
 - ✓ 一般選手への医科学面普及啓発活動

【活動実施上の問題点】

- 人材面 (※ JTUメディカルへの関与を希望するドクターは多いはず)
 - ✓ 日体協公認スポーツドクターへのアプローチ
 - ✓ 都道府県協会医事関与医師へのアプローチ
 - ✓ 地方大会救護医師へのアプローチ
 - ✓ 機動性の高いスポーツドクターを複数名確保
- 金銭面
 - ✓ 予算がなくともメンバーの可能な範囲で活動を実施
 - ✓ 実績を積み上げた上で予算申請を行う
 - ✓ toto 助成(医科学面一特に大会安全対策)申請も視野に入れる